

兵庫

西宮湯川記念賞：小松教授が受賞 宝塚西高卒で米テキサス大ー来月授賞式 /兵庫

日本人として初めてノーベル賞を受賞した湯川秀樹博士を記念し、ゆかりの地の西宮市などが基礎物理学の若手研究者に贈る「西宮湯川記念賞」に、米テキサス大オースティン校天文学科の小松英一郎教授（36）が決まった。授賞式は11月4日、西宮市役所で行われ、小松教授に賞金50万円が贈られる。

小松教授は、宇宙の大きさが現在の1000分の1のところに放った光の残光に含まれるわずかな「しわ」から有用な情報を抽出し、宇宙の広がりや歴史を正確に記述。「宇宙論を実証的な物理学として確立した功績は計り知れない」と評価を受け、受賞が決まった。小松教授は県立宝塚西高校を卒業後、東北大などを経て今年9月から現職。

同賞は湯川博士が同市の苦楽園に在住していた1934年当時、ノーベル賞受賞の決め手となった「中間子論」を提唱したことを記念。理論物理学研究者でつくる「記念事業運営委員会」と、同市が86年から毎年贈呈している。【浜名晋一】

〔阪神版〕

毎日新聞 2010年10月26日 地方版